

2021年度 入学試験問題

国 語

(60分)

〔注意〕

-
- ① 問題は㊦～㊨まであります。
 - ② 解答用紙はこの問題用紙の間にはさんであります。
 - ③ 解答用紙には受験番号、氏名を必ず記入のこと。
 - ④ 各問題とも解答は解答用紙の所定のところへ記入のこと。
 - ⑤ 各問題とも特に指定のない限り、句読点、記号なども一字に数えること。
-

西大和学園中学校

問題は次のページから始まります。

君たちは「一生なんてどうせ一回きりだ」と思っているかもしれないが、「生物の時間は繰り返す」と考えてみたらどうだろう。

生物の時間とは、心臓がドキドキ打つ、呼吸を繰り返すといった「繰り返しの時間」だ。個体の寿命とは、親が生まれて死んで、子が生まれて死んで、孫が生まれて死ぬという

I

の時間である。同じ状況に繰り返し戻るから、回っていると言ってもいい。生物の時間は「一回転の時間」なのだ。それに対してまっすぐ流れていくのが物理の時間だ。

時間は回るのか、それともまっすぐか？ 昔から人間は二つの見方を持っていた。時間が回ると考える民族はマヤや古代ギリシャ、インドがある。日本もやはり回る時間の中で生きていた。

それに対して直線的な時間観を持つ代表的な存在はキリスト教徒。キリスト教では、神様がこの世をつくったときから世の終末まで一直線に、ゾウがいがネズミがいが関係なく、神様の時間が流れていく。この時間の見方がニュートンを介して古典物理学に入っていた。ニュートン力学においては、時間はまっすぐ進むが、過去から未来へ進むと、未来から過去へ進むと、力学としては成り立つ。だがニュートンは、絶対時間は一方向にのみ進むと考えた。これは彼のキリスト教への信仰がそう言わせているのである。科学とは西洋近代という文化がつくり出したものであり、それはキリスト教の強い影響を受けているものだ。そういうことも民俗学などさまざまな勉強をするとわかってくる。

では、なぜ生物の時間は回ると私が考えるのか。

地球の歴史は四六億年、生命の歴史は三八億年と言われている。地球ができて間もない頃からずっと生物は絶滅することなく続いている。だから生物は続くようにできている、回って続いていくのが生物なのだと考えてよいと思う。

私たちの体は非常に複雑にできている。① セイミツな構造物だ。これをどうすれば維持できる？ 例えば、永遠に建ち続けられる建物はどう建てたらいい？

一番簡単なのは、絶対に壊れない建物をつくること。しかしこれは不可能だ。かたちあるものはときがたてば絶対に壊れる。物理学には熱力学の第二法則というものがあり、ときがたてば秩序あるものは必ず無秩序になっていくのだ。永遠に続く建物は、絶対に壊れないようにするというやり方では建てられない。

壊れてきたら直せばいいという考えもある。現存する世界文化遺産は大抵そういうふうになっている。法隆寺がそうだが、新しい部分と古い部分がかたがたになっているのだから、

X

ようにして、遺産というかたちで保存するしかない。現役

でバリバリ働けるといいうものでもない。

では、働き続けられる建物をどうすれば建てられるのか？その答えは伊勢神宮だ。

伊勢神宮は式年遷宮せんぐうといって二〇年ごとにまったく同じものを建て替かえてしままう。持統天皇以来、一三〇〇年続いているが、今も現役で機能している。これほど長い年月機能し続ける建物は世界でほかにない。まったく同じものを建て替かえて続けていくというやり方は、とても賢かしこい方法だ。

しかし、伊勢神宮は世界文化遺産に指定されない。なぜなら、西洋人いわく「これはただか一五年しかたっていないから」。けれども、日本人の感覚からすれば「回まわっているから一〇〇〇年続いているのだ」となる。これは時間に対する見方の違いちがいだと思う。そして、生物は伊勢神宮方式だ。

生物は現役で働いている。体は使つかっていけば擦すり切れるものだから、年を経るとうまく働かなくなるし、治なしてもシショウが出てくる。だったらアンチエイジングとかなんとか言いってじたばたせず、古ふるくなったらさつさと捨すてて、まったく同じ新しいものをつくればいい。それが「子どもをつくる」ということなのだ。そうして

I

しながら人類は五〇〇万年続いているし、生物全体としては三八億年続いている。

私たちは永遠に生きることにはできないけれど、子どもというかたちで自分とそっくり同じ私を次の世代につくることはできる。子どもは私、孫は私。そうやってずっと続いていくのが生物というものなのだ。

もちろん、子どもをつくる時、つまり時間を元に戻してリセットするときには大きなエネルギーがいる。速く回れば回るほどエネルギーを使うので、時間の速度とエネルギー消費量は比例関係になる。これは

I

に限った話ではない。筋肉のシユウシユクをはじめとして体の中のいろんな生体反応においては、働けば壊れるから、エネルギーを注ぎ込んで治なしてまた働くようにしている。生物の時間は回るものなのだ。

時間をまっすぐ進むものと考えれば、私たちの一生は一回きりだ。とすれば「死んだら後は知らない」という感覚になる。つまり、今の私がよければ、次世代の私が赤字国債こくさいで苦しもうが地球環境かんきょうが悪くなつて苦しもうとも「知ったこっちゃない」となる。しかし、実は子どもというかたちで私が残り、孫というかたちで私が残る。生物はずっと続いていくのだ。

残念ながら、そういう感覚が今の日本人からは抜け落ちてしまっている。

では、次世代のことについて話そう。ただし、これは生物学者としての発言である。誤解しないで聞いてほしい。

子どもは私である、孫は私である。そう考えると、子どもを産める条件を備そなえていながら子どもをつくらないという選択せんたくは、生物学

的には自殺に当たる（もちろん、子どもを産めないから人間として価値がないということではない。人間はいろんなかたちで次世代のための価値をつくり出すことができるからだ）。生物としての基本は次世代の私をつくること。それがすなわち大人になるということだ。

ところが、最近はみんな大人にならない、なりたがらない。次世代をつくらず、自分の好きなことだけをしている。³「子どものままでずーつといたい」と望む人が増えている現代社会は、極めて未成熟な危うい社会と言える。

何をどうしたって私たちはやっぱり死ぬ。死ぬと虚しいから、どこかに永遠がないと心が落ち着かない。人間とはそういうものだ。だから天国の永遠を考えて宗教を生み出した。けれども生命そのものが「この世の永遠」なのだ。子ども、そして孫というかたちで

A に、永遠に私が生き残っていく。これが生物。生物学はこういう見方を提供してくれる。だから生物学を勉強すると永遠が得られる。心が落ち着くのだ。

今の日本人には永遠という発想がない。古代の日本人は、仏教で **B** の永遠を保障し、神道で **C** の永遠を保障し、両方の永遠で安心して生きていた。神様の前で結婚式を挙げる。結婚は **D** の永遠を保障するものだから神道なのだ。お坊さんと呼んで葬式を営む。仏教は **E** の永遠を保障するものだからお坊さんなのだ。西洋人からは「日本人は二つの宗教を股にかけている⁴ セツソウのない民族だ」と言われるが、私はそう思わない。日本人は実に賢く永遠とつき合ってきたのだ。

生物学だけを勉強していたらこういう発想はできない。私はいろんな分野の学問を勉強するうちに、この結論にたどり着いた。脳みそにとつて、これはかなりの快感だ。そのうえ私自身が安心して生きて、死んでいける。今の日本人は安心して死んでいくことができな。君たちは精一杯生きて安心して死んでいけるような人生を送らなければならぬし、そのためにはもの見方を身につけなければならぬ。だから学問が必要なのだ。

私のような科学者が世の中の価値観に対して物申すのは越権行為だと見る **F** フウチョウがある。しかし、これは間違いだと思う。科学という行為そのものが一つの価値観であり、貨幣経済はまさに科学を下敷きにしてしているものだ。生物学というお金儲けにはつながらないが「脳みそのパン」となる学問をしていることで、私たちの生活がどうなっているのか、今の生き方はこれでいいのか、という世の中とは異なった見方、世界観をつかむことができるのだ。これこそが学問なのだと思う。私はみんなに少しでも良いパン、おいしい脳みそのパンを提供したいと思っている。

高校生以上の勉強は義務教育ではない。君たちのうち、一人でも多くの人が誇りを持って、自ら学問をしていこうと考えてくれたら、私はとても嬉しい。

（本川達雄『生物学を学ぶ意味』による）

【語注】

- (注1) ニュートン …… イギリスの物理学者、天文学者、数学者。(1642～1727)
- (注2) アンチエイジング …… 心身の老化を少しでもおさえ、できるだけ若々しさを保とうとすること。
- (注3) 赤字国債 …… 日本の税収では足りない支出を補うために発行される国の借金のこと。
- (注4) 越権行為 …… あた与えられた仕事上の権限を越えて事を行うこと。

問一 部①～⑤のカタカナを、それぞれ漢字に直しなさい。(かい書で、ていねいに書くこと)

問二

I

 には同じ言葉が入ります。あてはまる言葉としてふさわしいものを漢字四字で答えなさい。

問三

X

 に入る言葉として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア めはなをつける
- イ ちりもつもればやまとなる
- ウ つめにひをとす

- エ はれものにさわる
- オ てにあせをにぎる

問四

A

 ～

E

 には、「あの世」と「この世」のどちらかが入ります。どちらか一つをそれぞれあてはめ、文を完成させなさい。

問五 部1「これをどうすれば維持できる？」とありますが、筆者はこのことに関してどのように考えていますか。その説明と

して最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 私たちの体内の生体反応は、働けば壊れるので、壊れたところにエネルギーを大量に注ぎ込んで治してからまた働くようにして、なんとか健康な部分とそうではない部分とを折り合いをつけていく。

イ 生物の体は使っていれば擦り切れるものだから、いくらエネルギーを注ぎ込んで治しても働かなくなる部分もでてくるので、古くなったものはさつさと捨てて、まったく同じ新しいものを生み出す。

ウ 生物は生まれたあとには死に日々近づいていく存在であるので、複雑な構造物である体のどこかに異変が起きても、使っていれば必ず変調は起こるということを自然なこととして受け入れる。

エ 私たちの体は働いて擦り切れたところも、時間をかければ元に戻ることができるので、できるだけかたよった部分のみを働かせることなくまんべんなく体を動かす。

オ 生物の体は現役で働かなければ死に直結するので、体の衰えを感じはじめた時から、子や孫に助けってもらいながら衰えるスピードをできる限りおそくする。

問六 ——部2「生物は伊勢神宮方式だ」とありますが、それはどういうことですか。五十字以内で説明しなさい。

問七 ——部3「『子どものままでずーっといたい』と望む人が増えている現代社会は、極めて未成熟な危うい社会と言える」とありますが、筆者がこのように言うのはなぜですか。その理由として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 大人になることを拒否する人は、いつまでも社会のルールに適合することなく、好き勝手に人生を歩もうとするので、そのような人が増えると、社会のルール自体が成り立たなくなり、やがて社会が崩壊し、人類の存続も危うくなることになるから。

イ 子どものままでいたいという人は、大人としての役割を果たさず、自由気ままに生きたいので、社会に出て何かにしぼられながら生活することができないので、そのような人が増えると、経済活動の担い手が少なくなり、大人になった人の負担が増えることになるから。

ウ 現代社会の担い手となる大人は、次世代に子どもを残し、そんな子どもたちのよりよい未来を作ろうと考えるが、そのような人が少なくなると、なんとか明るい未来を作り出しても、それを受け取る子ども自体が少なく、せっかくの努力が報われないことになるから。

エ 子どものままでいたい人は、子どもを作ることや未来のために今を生きるといふ発想がないので、そのような人を少なくするために、法整備を進めてだれもが大人になりたいと願う社会の実現を果たさなければ、これからの国自体が成り立たなくことにつながるから。

オ 生物として次世代の自分を作ることが放棄する人は、一度きりの人生だから自分の好きなように生きたいと願い、死後この世界に迷わががかるうが構わないとさえ思うので、そのような人が増えると、今後の世界がより深刻な問題を多く抱えることになるから。

問八 ——部4「脳みそのパンとなる学問」とありますが、この文書においてそれはどのような学問のことですか。五十字以内で説明しなさい。

問九 本文の内容としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ニュートン力学において時間は過去から未来だけでなく未来から過去へも進むことができてしまうが、ニュートン自身はキリスト教徒であるので、神が作った時間の流れを無視することになるこの理論を発表するか悩むこととなった。

イ 今の日本はキリストの教えにある通り時間は過去から未来へと一直線に進むと考えている人が多く、子どもや孫といったかたち

で生き残るといふ感覚が無いので、子どもを作らず自由に生きたいと願う人が増えてきている。

ウ 体内の生体反応においては、動かせば動かすほど壊れていくものなので、エネルギーを使って壊れた部分を治すよりも、はじめから壊れるような動かし方をしないように気をつければ、長生きすることができる。

エ 絶対に壊れない建物を作るといふことは、法隆寺のような木造建築では不可能であり、ヨーロッパを中心に多く見られる石造りの寺院や聖堂にこそ永遠に壊れない建築物になり得る可能性を秘めている。

オ 宗教が生み出されたのは、死んだ後の不安を和らげるためであり、科学が進むことで様々なことがどんなに解き明かされても、まだまだわからないことが多いことを象徴しょうちょうしている。

二

高校生の「俺」は、ろくに学校に行かず、中学生のころ熱心に取り組んでいた陸上部にも入らず、夢中になれることがないままに毎日を通り過ぎていた。ある時、「俺」は先輩から、一か月間、一歳の娘（鈴香）の子守をしてくれないかと頼まれて、断り切れずに子守りを引き受けてしまう。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

「鈴香、今日はちゃんと座って食べるよ」

「まーす！」

食卓に昼食を並べると、鈴香は威勢良く手を合わせた。

今日の昼ご飯は、パン粉と玉ねぎをたくさん入れたふわふわのハンバーグだ。時間をかけて丁寧に何度もこねて、鈴香好みの甘めのソースで煮込んでやった。

「どうだ。おいしいだろ？」

「いしー！」

鈴香はハンバーグを小さな口にほおぼると、ほっぺをぺたぺた叩いて喜んだ。いつも、最初は調子よく（A）食べる。

「よし。いい子だな。はい」

俺が口に入れてやるたびに、鈴香は「いしー！」と繰り返した。（B）ハンバーグが気に入ったようで、人参とほうれん草を細かくしたものが入っていると知らずに、鈴香は夢中で食べている。

「いいぞー。さあ食べよう食べよう」動きたくなくなるくらいおいしいものを作ろうと、いつもより時間をかけて作ったご飯だ。これなら最後まで鈴香もおとなしく食べてくれるだろう。俺はどうか立たないでくれと心の中で唱えながら、どんどん鈴香の口にハンバーグを運んだ。

「いしいしいしー！」

「だよなー。俺も食べるか……。おお、いけるじゃねえか」

子ども向けに作ったハンバーグは肉の食感は足りないけど柔らかく、甘めのソースも昔から慣れ親しんだ味でおいしい。俺は鈴香の口に運ぶ間に、自分もハンバーグを口にした。

「いしー」

「ああ、おいしいよな」

「いしー、とつととー」

「おい、とつとじゃねえよ」

鈴香はパクパクと食べていたくせに、三分の一ほど残したところで、いつものごとく椅子から出ようと足を動かし始めた。

「まだごちそうさまじゃねえだろ？ おいしいんだったら、ちゃんと味わって食えって」

俺は立ち上がろうとする鈴香の足を押さえながらスプーンを口に向けた。

「とつとー」

「おいこら。動かず食えよ」

「とつととー」

鈴香はハンバーグを食べながらも、体中くねらせて俺が押さえるのを振りほどこうとする。まったくどうしようもないやつだ。

「お前、どんだけふざけてるんだ。そんなことじゃ、大きくなったら俺みたいになつちまうぜ」

由奈ちゃんのお母さんが言っていたように、「もうごちそうさまだな」と片付けようかとも考えたけど、せつかくまだ食べようとしているんだ。そこまですなくてもいいだろうと思ってしまう。

「さあ、もう少しだ。ちゃんと食べるって」

最初は足を押さえられながらも食べていた鈴香も、（C）していられなくなってきたのか「ぶんぶー」と叫びだした。

「なんだよ。食えよ。おいしいだろう？」

「ぶんぶー」

「ほらさつさと食つちまおう」

「ぶんぶー！」

鈴香は動けないことが耐えられないらしく、大きな声で叫ぶと、目の前のスプーンを手で払いのけた。その勢いで、スプーンは床に転がり、ハンバーグのソースがべたりとついた。

「おい、汚ねえじゃねえか」

俺が布巾で床の上を拭いていると、鈴香は半分泣き声を混じらせながら、「ぶんぶー」と訴えてきた。

「何が嫌なんだよ。おいしいものを食べているのに、どうしてじっとできねえんだよ」

「ぶんぶー」

「ああ、こんなとこまで汚しちまって。って、おいあぶねえ」

俺が服に飛び散ったソースを拭いてやろうとすると、鈴香は体をそらしながら拒否し、そのまま椅子ごとひっくり返った。

「おい、大丈夫か？」

小さな椅子と一緒にじゅうたんに倒れただけだから、どこも痛くないはずだ。それなのに、鈴香は床に転がったのと同時に堰を切ったように泣き出した。

「ぶんぶ」

「ほら、鈴香」

俺が起こしてやろうとしても、鈴香は首をぶんぶん振っている。

「いつたいどうしたいんだよ」

「ぶんぶー！」

「泣いてたつてしかたねえだろ」

「ぶんぶ」

何を言っても、鈴香は（ D ）転がりながら泣くだけだ。

「なにが嫌なんだ？」

丁寧に作ったものを慎重に食べさせていたのに暴れられるのだから、泣きたいのはこつちだ。

「ぶんつぶ」

「お前、意味わかんねえやつだな」

「ぶー」

鈴香は泣きながら足をバタバタさせ始めた。こうなるとなかなか泣き止まない。ただ昼飯を食べていただけなのに、どうしてこうなるのだろうか。

「なにが不満なんだよ」

「ぶんぶー」

「ご飯が嫌なのか？ 食べたくねえのか？」

「ぶんぶー」

「だから、ぶんぶばつか言つてて、わかるわけねえだろう」

「ぶんぶー！」

「ぶんぶーじゃなくて、お前、言いたいことがあればちゃんと見えよ」

なんだこれ。³俺は自分で放つた言葉に、眉をひそめた。俺が何度も何度も言われてきた言葉じゃないか。「うざい」「しばくぞ」「死ね」俺がそういう言葉をはくたびに、教師はこぞつて、

「うざいじゃわからないだろう。思っていることをちゃんと言いなさい」と言った。

あのころの俺の言いたいことは何だったんだろうか。もちろん、うざいや死ねと言いたかったわけではない。だけど、その奥に何か伝えたいことがあったのかと聞かれれば、そうではない気もする。不安や不満やいら立ち。どうしていいかわからないそれらを前に、ただ、吠えたかっただけなのかもしれない。鈴香はどうだろう。あのころの俺と同じように、持て余した気持ち、何かのきつかけで爆発しているのいるのだろうか。

相変わらず鈴香は泣け叫びながら転がっているだけで、どうしてほしいのなんて読み取れやしない。ただ、鈴香の泣き声を聞きながらでは、食欲がわからないのは確かだ。

「ったく。俺もごちそうさまだな」

俺も食べるのをあきらめて、鈴香の横に寝転がった。いつもうまくいくわけじゃないし、思いどおりになって物事は運ばない。子どもを相手にするというのはそういうことだ。けれど、このまま鈴香が（E）うろろしながらご飯を食べるようになっても困る。

おいしい食事を用意したところで、うまくいかなければ、どうすればいいのだろう。由奈ちゃんのところみたいに早々に片づけるのがいいのだろうか、早く食べられるように量を減らすのがいいのだろうか。それとも、椅子に体を固定させるようにしたほうがいいのだろうか。いや、あれこれ手を考えるより、もっと根本的なことなのかもしれない。

⁴俺の頭の中を、公園のお母さんたちのことがよぎった。あそこにいるお母さんたちはそろいもそろって、いい人ばかりだ。会えば必ず挨拶をしてくれ、何かあれば声をかけてくれ、自分の子どもでなくても泣けば心配し手を貸してくれる。たまたまあの公園に朗らかにで気遣いができる人たちが集まっているのだろうか。まさかそんなわけはない。

きつとどのお母さんも、どこかで良い人間であろうとしているのだと思う。子どもにそうあってほしいと望むから、自分も礼儀正しく快活で、公平にみんなに気を配っているんじゃないだろうか。子どもに何かを示すには、それにふさわしい人間でいようとしなければならぬかもしれない。

「子どもって本当大人の顔色見るのうまいよね」と、お母さんたちはよく言う。鈴香だって俺のことをどこかで見透かしているのじゃないだろうか。

不良でどうしようもない俺の言葉など、何の説得力もなく当然だ。好き勝手やっている俺が、ご飯一つ座って食べさせられなくても仕方ない。「俺みたいになつたら困る」と言ってるやつ言うことを聞く子どもなんて、いるわけがない。

だからと言って、突如^{とつしよ}良い人間になれはしない。でも、あのお母さんたちみたいに正しくあろうとすることは、手の込んだ料理を作ることより有効なのかもしれない。どうすればいいのかは思いつかないけど、俺の中でひつかかっているものくらいはクリアにした⁵ほうがいい。

「面倒^{めんどう}だけど、しかたねえな」

転がりながら泣いていたくせに、もうとうとうとし始めている鈴香を見ながら、俺はそうつぶやいた。

(瀬尾まいこ『君が夏を走らせる』による)

【語注】

(注1) 由奈ちゃん … 「俺」と鈴香が公園で出会った、幼稚園^{幼稚園}に通う女の子。

問一 部 a、b、c の本文中における意味として最もふさわしいものを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

a 「威勢良^{いきせ}く」

ア 素直に イ 熱心に ウ 静かに エ 大きさに オ 元気に

b 「堰^{せき}を切ったように」

ア こらえ切れなくなつてあふれ出すように イ 怒^{いか}りがこみあげてくるように ウ 気持ち^{いきもち}が伝わらず悔^くやむように

エ 感情を押さえてこらえようとするように オ 焦^{あせ}つて急いでいるように

c 「快活^{かいかつ}」

ア 面白くてのびのびしている イ 明るくてきびきびしている ウ 美しくてはきはきしている

エ 優しくてもじもじしている オ 若くていきいきしている

問二 (A) (E) にあてはまる語としてふさわしいものを、次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。ただ

し、同じ記号を二度以上用いてはいけません。

ア よつぽど イ ずっと ウ じつと エ きちんと オ そつと カ ごろごろと

問三 ——部1 「そこまでしなくてもいいだろう」とありますが、「俺」はどうすべきだと考えているのですか。その説明として最

もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 子どもが食べることを嫌がって食べないなら親は子どもに無理にご飯を食べさせるといことまではせず、子どもの気持ちを優先してすぐにも食事を片付けてしまおうべきだと考えている。

イ 子どもが食事を最後まで食べることができないなら親は食事を早々に片付けるといことまではせず、量を減らしたり椅子に身体を固定させるようにしたりと工夫するべきだと考えている。

ウ 子どもが食べることを嫌がって食べないでいるのなら食事中でも中断して親は食事を片付けるといことまではせず、満腹になつていなければ最後まで食べさせ続けるべきだと考えている。

エ 子どもがふざけて親の言うとおりに行動しようとしなければ親はあきらめて子どもの好きなようにさせるといことまではせず、無理しても親の言うことを聞かせるべきだと考えている。

オ 子どもが言葉にできない感情を爆発させ暴れているなら親はどうしてほしいかをじっくり考えるといことまではせず、子どもが自分の思いを話すようになるまで待つべきだと考えている。

問四 ——部2 「泣きたいのはこつちだ」とありますが、この時の「俺」の気持ちの説明として最もふさわしいものを次の中から一

つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分でご飯を食べることができない鈴香のために慎重にご飯を食べさせていたが、鈴香が自分で食べようとするので、もう自分が鈴香のお世話をする必要はなくなつてしまったと思ひ、残念がつている。

イ きちんとご飯を食べてくれるよう一生懸命考えたが、鈴香が暴れてご飯を食べてくれない上に、「俺」に対して思っていることをはつきり説明してくれないので、どうしていいか分からず困っている。

ウ ご飯を食べたくないと暴れるうちに、鈴香が椅子からじゆうたんに転げ落ちて泣き出したので、小さな子どもにとってはかなり痛かつたのだからと想像して、鈴香をかわいそうに思っている。

エ 「俺」を自分勝手な人物であると見透している鈴香は、そのような人の言うことなど聞く必要はないと「俺」に反抗してご飯を

食べようとしないので、とても悲しく思っている。

オ これまでは「俺」の言うことを大人しく聞いていた鈴香が、ご飯がおいしくなかったために、「俺」の言うことを聞かず自分の感情のままに行動し始めたことを不満に思っている。

問五 ——部3 「俺は自分で放った言葉に、眉をひそめた」とありますが、なぜですか。その理由を八十字以内でわかりやすく説明しなさい。

問六 ——部4 「俺の頭の中を、公園のお母さんたちのことがよぎった」とありますが、なぜですか。その説明として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 公園のお母さんたちは明らかで気遣いができるいい人ばかりであり、不良でどうしようもない「俺」のような人ではなく、彼女たちこそが鈴香が理想とする人であるとわかったから。

イ 子育て経験のある公園のお母さんたちであれば、泣き叫びながら転がっているだけの鈴香を見るだけでどうしてほしいのか読み取ることができるので意見を聞きたいと思ったから。

ウ おいしい食事を作って鈴香に言うことを聞かせようとしたが上手くいかず、どうしたらよいか分からなくなったため、公園の優しい母親たちなら助けてくれると考えたから。

エ 鈴香が言うことを聞かないのは、「俺」に公園の母親たちのような経験も知識もないためであり、彼女たちのような子育てができなくて当然だと思われられたから。

オ 鈴香に言うことを聞かせるためには、公園の母親たちのように子どもにそうあって欲しいと望むのにふさわしい人間に自分が必要であると気づいたから。

問七 ——部5 「俺の中でひっかかっているものくらいはクリアにしたほうがいい」とありますが、この表現に込められた「俺」の思いを説明したものとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 目の前の問題をすぐに解決できず考えすぎてしまうくらいであれば、一番いい解決方法を思いつけるように、他の簡単な課題から一つ一つこなそうと前向きにとらえる思い。

イ どうすればいいのか分からず考えていることに思い悩んで不安な気持ちになるくらいであれば、悩みごとを忘れて考えるのをやめてしまおうとあきらめる思い。

ウ いろいろな面倒を見てあげた相手が自分に反抗はたごうしてくることで腹立たしさを感じるくらいであれば、相手に対してもう何かして

あげる必要はないと決心する思い。

工 行動した結果をあこれと考えて、行動を起こすか起こさないかで悩むくらいであれば、とりあえず実行にうつしてみようと覚悟を決める思い。

オ 自分よりも年下の相手の言動に対して、相手を理解してあげようとせず怒ってしまったことを後悔するくらいであれば、謝って仲直りしたいという思い。

問八 次に示すのは、本文を読んだ後に、五人の生徒が本文中の「俺」が何を学んだのかについてそれぞれ話している場面です。本文の内容と異なる意見を次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 生徒A 今までの「俺」は自分の視点からしか見ていなかったのではないかな。鈴香の子守りをするなかで、今までの自分の言動がわがままだったことに気づいたみたいだ。

イ 生徒B 最初は「俺」も自己中心のだったよ。鈴香に「お前、言いたいことがあればちゃんと言えよ」と言って注意しているけれど、自分も大人に同じようなことを言われていたよね。だから、相手を納得させるためには、まず「俺」自身の言動を正してから注意しないとね。

ウ 生徒C 物事をとらえる視点を変えることは大事だよ。私も、先日の職業体験で、お客さんからお礼を言われてうれしかったんだ。だから自分がお客さんになったときお礼を言おうと思ったよ。きっと「俺」も同じだと思う。

エ 生徒D 「俺」は鈴香のおかげで責任感も身につけられたよね。「面倒だけど、しかたねえな」から、本当は子守りなんかしたくないけれど、一度引き受けたからには最後までやり通そうとする気持ちがわかるね。きっと鈴香が最後まで食事を食べない様子を見て、やりきることの大切さを学んだんだね。

オ 生徒E あと、「俺」は鈴香の気持ちで「ただ、吠えたかっただけなのかもしれない」という以前の自分の気持ちを当てはめて考えているのも、鈴香に寄り添うことで、もっといいやり方を思いつくかもしれないと思いきりの大切さにも気づいたのではないかな。

あとの各問いに答えなさい。

(i) 次の各会話文を読み、文中の [] に入れるのにふさわしい四字熟語を考えて、漢字で答えなさい。

1 Aさん

昨日、弟の幼稚園で絵の作品展があったので行ってきたんだ。

Bさん

そうなんだ。どんな絵を見ることができたの？

Aさん

まさに [] で、様々な感性の作品が並んで楽しかったよ。

Bさん

それぞれにそれぞれの個性があるということだね。

2 Aさん

夏休み遊びすぎてしまって、宿題がまだ終わらないんだ。

Bさん

それって [] じゃないの。

Aさん

そうだね。遊びすぎた自分が悪かったんだ。

Bさん

次からはしっかりと計画立てようね。

(ii) 次の各会話文を読み、文中の [] に入れるのにふさわしい言葉をそれぞれ考えて、一つの慣用句を完成させなさい。

1 Aさん

最近、練習をものすごくがんばっているね。

Bさん

次の大会では絶対に勝ちたいんだ。他のメンバーも気合い入っているよ。

Aさん

あまり無理しすぎないでね。けがでもしたら [] も [] もないからね。

Bさん

ありがとう。気をつけるよ。

2 Aさん

今日の試合負けてしまっただね。勝てると思ったのに、どうしてだろう。

Bさん

対戦相手は弱小チームだと [] をくくっていたんじゃないか。

Aさん

たしかに、勝てる相手だと思って、油断したかもしれない。

Bさん　やはりどんな相手でも全力で戦う姿勢が大切だね。

(iii) 次の文章は六つの段落で構成されています。段落Aの前に二つ、Bの前に二つの段落が入ります。あとのア～オの段落を正しく並べかえ、文章を完成させなさい。(□□A□□B)

□ □
A　しかし、ともすると私たちの自然観は、このようなものになりがちなのだ。カやハエのすめない世界は、おそらくチョウもトンボもすめないだろう。なぜならカやブユや小さな昆虫こんちゅうがいるからこそ、トンボはこれを捕食ほしょくして生きていける。こうした連中がいなくなれば、トンボは食べるものがなくなってしまうのだ。

□ □
B　このような樹林は、うっそうと茂しげった緑の深い山であり、大樹が枝をひろげ、その下はいつも日陰ひかげで湿しめっているはずだ。そこに下草が生える。こうした生態系が樹林を豊かにする。そこには多分、私たちがあまり歓迎かんげいしない虫たちもすむことになるだろう。カやブユはもちろん、ゲジ、ヤスデ、ヒル、ナメクジ、ヒキガエル、ヘビなど、あらゆるいやな動物がともに生活することになる。これが自然界というものだ。都合のよい動物だけを残すことは、不可能に近い。

(奥井一満『悪者にされた虫たち』による)

ア　そして、このような植物の中にうごめく幼虫のアオムシやイモムシを見つけたヒトが、はたして「大事なチョウの子どもたちよ」と育てるだろうか。野菜につく幼虫だつて、チョウもいればヨトウムシもいるし、ハバチもいる。だいいちチョウは、多様な分化をした昆虫こんちゅうだ。食草だつて多様である。たとえば黒地に青いしまのある美しいアオスジアゲハの幼虫は、クス、タブ、シロダモ、ニッケイ、イヌガシなどクスノキ科の照葉樹につく。ということは、本州太平洋側の暖帯常緑広葉樹林帯は、そうとうに保存されていなければならない。

イ　だいぶ以前の話になるが、どこかの市長選挙のスローガンか何かで、「蝶たちょうやトンボは舞うけれども、カやハエのいない街づくりを」というのを聞いた覚えがある。私は、ばかばかしいと思うと同時に、人の身勝手さに少々腹もたち、それから後はおりに触

れ、これを話題にした。いったい自分に都合のよい自然なんて、できるのだろうか。これは「春だけあって冬のない街づくり」というのと同じで、まったくナンセンスなスローガンである。

ウ チョウが乱れ飛ぶには、それだけ多く食草となる植物が必要だ。モンシロチョウならカラシナ系統の草がそうとうに生い茂るか、ナタネかキャベツの畑が必要になる。アゲハの仲間にとつては、柑橘系統の木やカラタチが茂っていないと生い茂るは、最初から幼虫の混み合いを避けるために、卵を一個ずつ、離れたところに産む。だから相当数の植物相がなければ、チョウが乱れ飛ぶ街にはならない。

エ またある日、校庭の片すみで近ごろ珍しいヤマユガをと捕らえ、いじっていたら、のぞきこんだテニスウエアの女子学生が「キヤー」といって飛ぶようにに逃げていった。何もしないのに、「気味が悪い」とか「粉（鱗粉）が散る」というのが不快の理由らしい。私は、これが普通の人々の虫に対する感じ方なんだと、あらためて思い知らされた。

(Ⅳ) 次の文を読み、文中の [] に入れるのにふさわしい言葉を考えて答え、その言葉を入れた理由を簡潔に説明しなさい。

作並くんは、中学に入る頃から、書道教室には来なくなったそうだ。それでも、この庭には時たま、思い出したようにふらりとやって来て時間をつぶしていた。

「でも、あんなに仲が良かったのに、小夜ちゃんとも話さなくなっちゃってねえ。たまに二人が喋っているのを聞いたら、
[] しいったらないの。名字で呼び合っちゃって」

(山田詠美『海の庭』による)

国語解答用紙

受験番号	氏名

※の欄には何も書かないこと。

一										
問八			問六			問五	問四	問二	問一	
								A	①	
						問七				
								B	問二	②
						問九				
								C	③	
50	30	10	50	30	10					
								D	④	
								E	⑤	
40	20		40	20						
※										

二										
問六	問五				問三	問二	問一			
						A	a			
問七					問四					
						B				
										c
問八										
		70	50	30	10					C
										D
										E
80	60	40	20							
※										

三				
(iv)	(iii)	(ii)	(i)	
		1	1	
		A		
		も		
し	B			2
い				
		もない		
		2		
		をくくっていた		
※				

※

国語訂正

(5ページ) 問八

誤 この文書ニにおいて

←

正 この文章ニにおいて

(10ページ) 十一行目

誤 相変わらず鈴香は泣け叫びながら

←

正 相変わらず鈴香は泣き叫びながら

(10ページ) 十四行目

誤 思いどおりになつて物事は運ばない。

←

正 思いどおりになつて物事は運ばない。

(17ページ) Ⅲエ 二行目

誤 「キヤー」といって飛ぶように逃げていった。

←

正 「キヤー」といって飛ぶように逃げていった。

国語訂正

(16ページ)

iii 問題文

誤 あとのアゝオの段落を

←

正 あとのアゝエの段落を

(17ページ)

iii エ

誤 ヤママユガをと捕らえ、

←

正 ヤママユガを捕らえ、

(10ページ)

10 行目

誤 爆発しているのいるのだろうか。

←

正 爆発しているのだろうか。

(5ページ)

問七 エ

誤 国自体が成り立たなくこと

←

正 国自体が成り立たなくなること